

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度		2024年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス	開設学科		食品開発科学科				
科目名称		薬理学				授業形態		講義				
科目コード		278700	単位数		2単位	配当学年		3	実務経験教員		○	
担当教員名		山田 光子									ICT活用	○
授業概要		<p>本科目の目的は、医薬品の適切な利用を判断する能力を養うことです。医薬品は、使用量や使用方法を誤ると健康を害することがあります。医薬品とその利用に関する知識を身に付けるよう、医薬品の基礎、医薬品と生体とのかかわりを解説します。健康食品管理士としての活動経験をもとに、薬効に影響をおよぼす食品・健康食品の摂取について解析します。学校薬剤師の経験をもとに、薬物乱用等の諸問題について現状と課題を概説します。治療薬とそのメカニズムの講義では、主な疾患について疾患ごとに薬物療法を解説します。</p>										
関連する科目		「生理学」と「健康食品概論」を履修済みであることが望ましい。本科目と同時期に開講される「食品のための臨床検査学」を履修することが望ましい。										
授業の進め方と方法		<p>テキストと配付資料を用いて講義します。 授業中に発言、発表を求めることがあります。小テスト（予習テスト、復習テスト）を実施することがあります。 毎回課題を出します。課題の提出およびフィードバックはユニバのクラスプロフィール上で行います。</p>										
授業計画【第1回】		医薬品の基礎(1)：医薬品の概念と種類、処方と調剤、日本薬局方										
授業計画【第2回】		医薬品の基礎(2)：医薬品の有効性・安全性、新薬の開発、ジェネリック医薬品										
授業計画【第3回】		医薬品と生体とのかかわり(1)：医薬品による有害反応、薬効に影響を与える生体要因										
授業計画【第4回】		医薬品と生体とのかかわり(2)：薬力学と薬物動態学、投与経路										
授業計画【第5回】		医薬品と生体とのかかわり(3)：薬物相互作用、薬効に影響をおよぼす食品成分										
授業計画【第6回】		医薬品や薬物にまつわる諸問題(1)：薬害、急性薬物中毒										
授業計画【第7回】		医薬品や薬物にまつわる諸問題(2)：薬物乱用、危険ドラッグ、ドーピング										
授業計画【第8回】		治療薬とそのメカニズム(1)：降圧薬、脂質異常症治療薬										
授業計画【第9回】		治療薬とそのメカニズム(2)：糖尿病治療薬										
授業計画【第10回】		治療薬とそのメカニズム(3)：痛風・高尿酸血症治療薬、骨粗鬆症治療薬										

授業計画 【第11回】	治療薬とそのメカニズム(4)：抗炎症薬
授業計画 【第12回】	治療薬とそのメカニズム(5)：抗菌薬、抗ウイルス薬
授業計画 【第13回】	治療薬とそのメカニズム(6)：催眠薬・抗不安薬
授業計画 【第14回】	治療薬とそのメカニズム(7)：麻薬性鎮痛薬
授業計画 【第15回】	治療薬とそのメカニズム(8)：消化性潰瘍治療薬
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品に関する知識、医薬品と生体とのかかわりに関する知識を身に付け、医薬品の適切な利用を説明できるようになる。 2. 薬効に影響をおよぼす食品成分に関する知識を身に付け、食品、健康食品の摂取のあり方を説明できるようになる。 3. 疾患の治療薬とそのメカニズムを理解している。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	テキストと配付資料を見て授業内容を把握しておく。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	授業を振り返りながら課題を解く。授業中にとったメモを整理しポイントをノートにまとめる。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	課題、小テストはコメントを付けてあるいは採点して返却し、必要に応じて授業中に解説します。
評価方法・基準	定期試験 70点、課題 15点、小テスト 15点
テキスト	薬のはたらきを知る やさしい薬理のメカニズム 第3版 (中原保裕著、学研メディカル秀潤社)
参考書	新薬理学 (安原一監修、日本医事新報社) 治療薬ハンドブック (高久史麿監修、じほう)
備考	健康食品管理士認定試験の受験資格を得るためには、本科目の単位を修得する必要があります。